

大学図書館における 研究者の情報利用

現状および経験からいえそうなこと

2016年7月31日

Wiley Executive Seminar

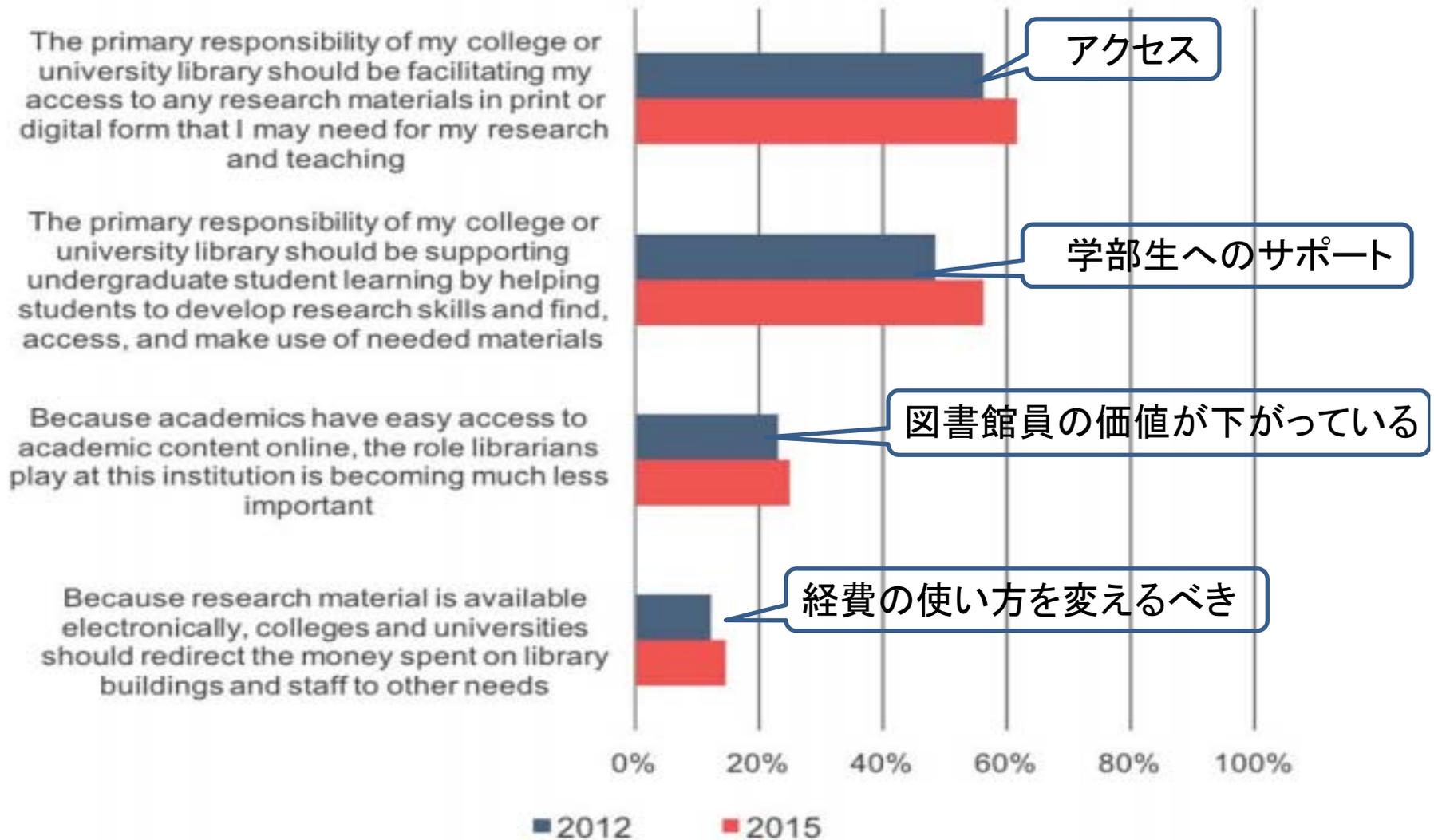
東京国際フォーラム ガラス棟会議室7階

慶應義塾大学日吉メディアセンター
市古みどり

研究者の思い

- 最高の価値は研究集大成としての本の出版
- 雑誌は雑文、だから私は雑誌論文など書かない
- わかるひとにはわかる、わかるひとにはわからない
- コミュニティで会話し、そこで質を保証されたい
- 出版物より一次資料、史料が大事、だから人の研究発表など興味なし、いい資料さえ図書館は購入してくれればそれでいい、他のサービスなどいらぬ
- 英語である必要がない、英語で書けない、書かない
- Nature、Science、Cellが命
- インパクトファクターの高い雑誌に書かないと将来がない
- 経験値を上げるための発表先(評価の高くない雑誌)も必要だ
- 早く世に出したい
- とりあえず数を稼ぎたい
- プロシーディングが成果
- 数年にじっくり1本の論文を発表
- プレプリントでまずは発表、情報交換
- 多くの人に読んで欲しい

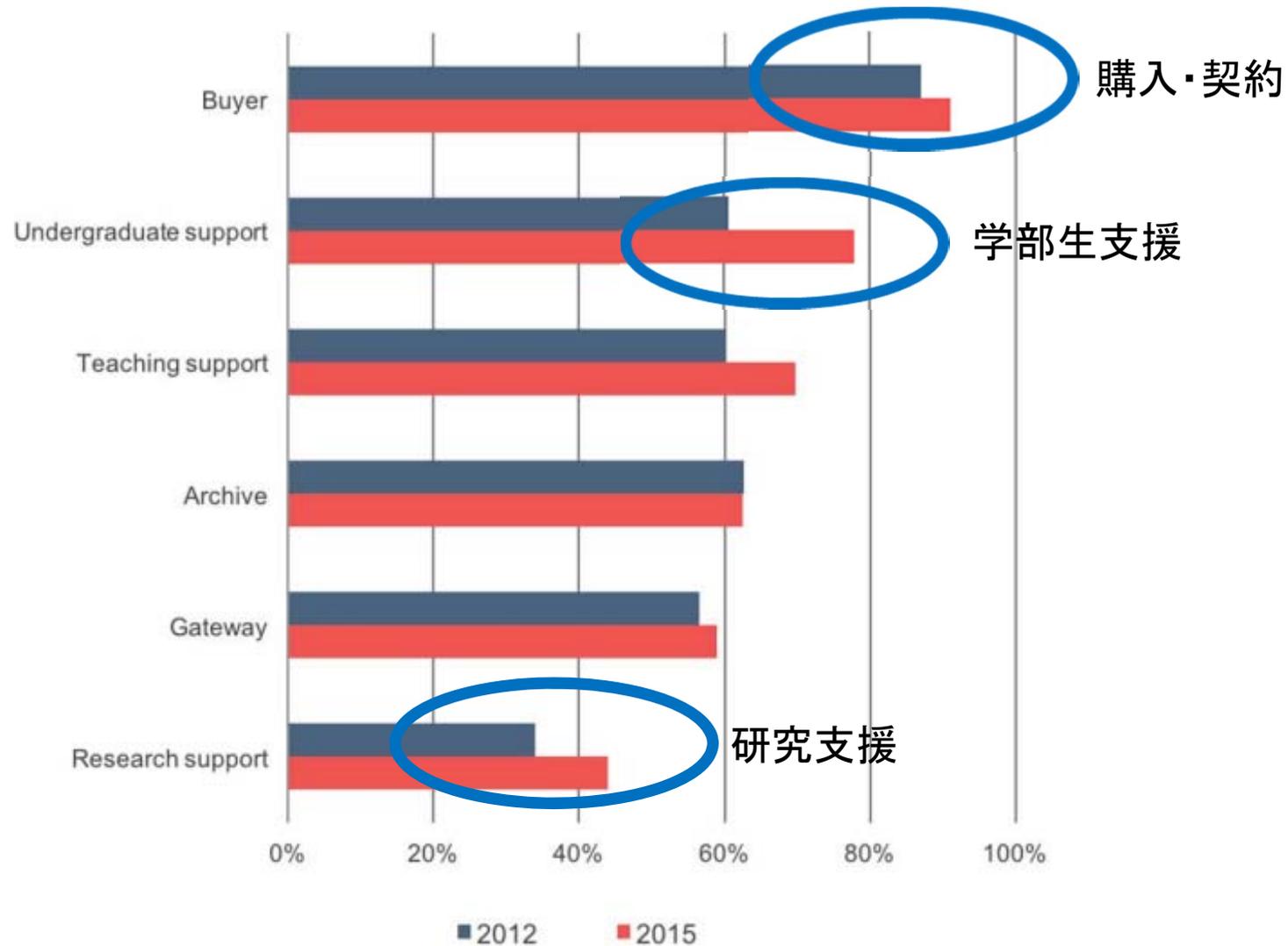
図書館の役割に関する意識



ITHAKA S+R. UK survey of academics 2015

http://www.sr.ithaka.org/wp-content/uploads/2016/06/SR_Report_UK_Survey_Academics_2015_06152016.pdf

図書館機能の重要度

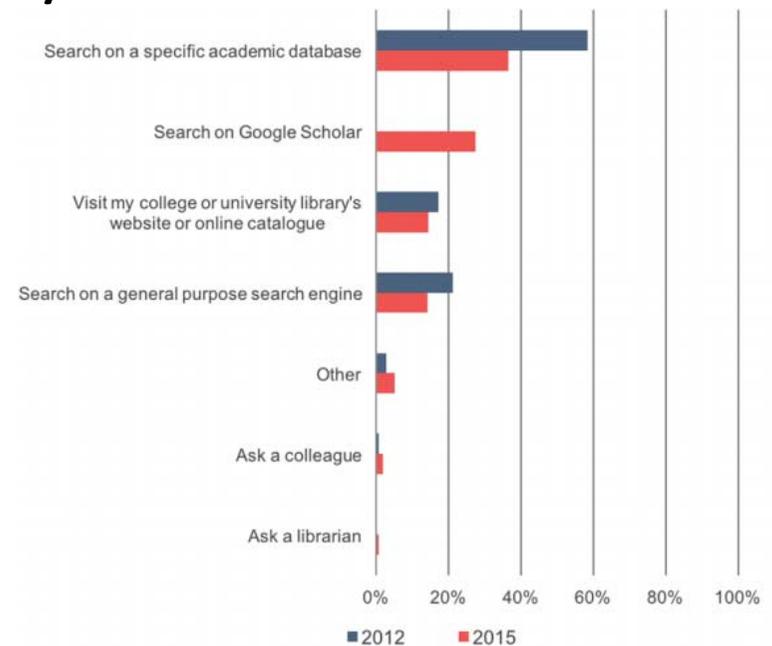


ITHAKA S+R. UK survey of academics 2015

http://www.sr.ithaka.org/wp-content/uploads/2016/06/SR_Report_UK_Survey_Academics_2015_06152016.pdf

電子資源への入口 at Keio

- KOSMOS (図書館蔵書検索システム)
 - Aleph、SFX、Primo Central --- Ex Libris
- 教職員用ポータルシステム/学事システム
- 図書館データベースナビ
- Google/Google Scholar
- CiNii (KOSMOSにもタブ)
- PubMed
- Web of Science/Scopus



電子ジャーナルの今 at Keio

- ダウンロード数、契約タイトル数(10万)は増加
- 論文出版は個人、大学の評価の重要な指標と認識
- (Gold)オープンアクセスジャーナルの選択増
- 文献を使う⇒データベースとして使いたい
/使ってしまった！
- 過去10年間、予算に変化なし
- 予算の集中化はしていない
- パッケージ契約の見直し
- 契約のない電子ジャーナル

電子ブックの今 at Keio

- 電子学術書(日本語)利用実験 2010-2012.3
 - 技術検証、利用実験
 - 「MediaNet」
<http://www.lib.keio.ac.jp/publication/medianet>
- D(P)DA(海外プラットフォーム)実験中
 - KOSMOS(OPAC)にナレッジベースを展開後、大幅なリクエスト増

図書館の研究支援 at Keio

- 電子ジャーナル/オープンアクセス
- 研究業績データベース
- 研究倫理教育
- 研究の現状分析
- 協同研究に関する調査

- 研究資料の保存/アーカイビング

その他 at Keio

- 機関リポジトリ
- Google Library Project後
- DOI、ORCID
- 文献管理ソフト、SNS

- ファブスペース
- MOOCs

終わり

Wiley Executive Seminar 2016
COI開示

演題名： 大学図書館における研究者の情報利用
発表者： 市古みどり

私が発表する今回の演題について開示すべきCOIはありません。

資料の無断転載はご遠慮下さい。

(No reproduction or republication without written permission)

問い合わせ先： ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社
学会英文誌出版部

Tel 03-3830-1255

Email jtominaga@wiley.com